

第15回未来医療セミナー

演題：生活習慣病の新たな標的

演者：大阪大学大学院医学系研究科
内分泌・代謝内科学 教授
下村 伊一郎 先生

《要旨》

末梢のエネルギー貯蔵庫と考えられていた脂肪組織からアディポネクチンやレプチンといったアディポサイトカインが産生分泌され、糖・脂質代謝、動脈壁の恒常性に強く関わり、脂肪蓄積時のこれらアディポサイトカイン産生異常が病態を引き起こし、そしてそのバランスの補正が生活習慣病制御につながることを明らかにしてきた。これまでホルモンの指令を受け取る側とされてきた種々の末梢臓器から、アディポサイトカインのような生理活性因子が産生されていることを予測した。

本講演では新たに同定した骨格筋由来新規ホルモン因子であるMusclin（マスキリン）および内臓脂肪由来分泌因子Visfatin（ビスファチン）について紹介し、今後の医学応用の可能性について述べる。

日 時：2005年5月17日(火) 18:00より

場 所：大阪大学医学部附属病院 14階会議室

連絡先：未来医療交流会(大阪大学 医学部附属病院 未来医療センター内)

Tel：06-6879-6557,6552, Fax：06-6879-6538

協 賛：21世紀COE「細胞・組織の統合制御にむけた総合拠点形成」

-Center for Integrated Cell and Tissue Regulation-